

授業科目名	身体表現論	担当教員 児玉 北斗 岡元 ひかる	
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第3クオーター		
講義内容	この授業の目的は、身体表現の多様性を認識するとともに、その表現性がどのようにして生じているのか／生じていないのかを知ることにあります。授業の内容は、講師の選んだ身体表現の分野やテーマをもとに、書物や写真、映像などを通じて、そのことを考えてゆくものです。		
到達目標	授業で取り扱う身体表現の表現性が、どのような技芸や理念や仕組みによって生じているのかを、具体的に説明することができる。		
授業計画	<p>2025年度は次のような身体表現の分野やテーマを用意しています</p> <p>岡元：現代のさまざまな身体表現 児玉：パフォーマンスにおける自由と不自由の二重性 1：イントロダクション【児玉・岡元】 2：真似？する身体①：ピナ・バウシュの作品の継承【岡元】 3：真似？する身体②：ジェンダーの搅乱【岡元】 4：権力と身体【岡元】 5：真似？する身体③：暗黒舞踏の「なる」技法【岡元】 6：コンテンポラリーダンスと即興【岡元】 7：日常におけるパフォーマンス【児玉】 8：儀礼とリミナリティ【児玉】 9：プレイ、ルール、ゲーム【児玉】 10：パフォーマティヴィティ：言語行為からジェンダーまで【児玉】 11：行動の復元【児玉】 12：復習と到達度チェック（授業内レポート）、質疑応答【児玉・岡元】</p>		
事前・事後学習	<p>岡元：配布資料のチェックや参考文献の部分的読解など、適宜指示します 児玉：授業内で触れた考え方を基に、日常生活、芸術・観光との関連について考察を試みてリフレクションに記入する（岡元、児玉ともに事前・事後学習として週2時間程度）</p>		
テキスト	特に指定しません		
参考文献	適宜紹介します		
成績評価の基準	<p>平常点 60%：毎回の授業中の様子やリフレクションの質をもとに判定 提出物 40%：授業内レポート</p>		

履修上の注意 履修要件	「パフォーミングアーツ概論」を履修していることが望ましい
実践的教育	該当しない
備考欄	この授業は岡元と児玉の教員 2名によるオムニバスタイプのものです